



市民1000人委員会
みんなでつくるう ええまち堺

2019年堺市長選挙

たたかう 堺 市民

～振り返りレポート～



市政を刷新し清潔な堺市政を取り戻す市民1000人委員会 編

～目次～

オープニング発言（山田憲司さん）	2
報告と提起（前田純一さん）	

第1章 報告

1 候補者として市長選をどう闘ったか？	(野村友昭さん)	3
2 「チーム堺」はどう闘ったか？	(渕上猛志さん)	5
3 「住みよい堺市をつくる会」はどう闘ったか？（丹野 優さん）		6

第2章 活動交流 各区＆各委員会＆各イベント

1 堺区	(出来 秀人さん)	7
2 北区	(小西 照夫さん)	
3 美原区	(東 摩耶子さん)	
4 西区	(永廣紀美子さん)	8
5 中区	(大町 英三さん)	9
6 南区	(小川たか子さん)	
7 S N S 委員会（立石 篤史さん）		10
8 広報委員会（渕上 哲也さん）		
9 「土佐いく子先生の子育てが面白くなる話」	(塩野直美さん)	11
10 「シェルトンさんと考えるこれからの堺の学校」	(荻野 豪さん)	
11 「クロスブリードパーティー～踊れ踊らされる前に」	(山部 聰さん)	12

第3章 グループ討議

1 良かったところ	13
2 悪かったところ	15
3 今後の課題や取り組み	18

まとめ（門哉彗遙さん）	21
締めくくり発言（高橋 保さん）	

資料 23～25

市政を刷新し清潔な堺市政を取り戻す 市民1000人委員会 振り返りのつどい

2019年6月9日に堺市長選挙がありました。そこで市民1000人委員会としての各区・各グループの創意工夫に満ちた自主的な活動や、5/6スタートのつどい・6/4市民集会・6/8市民共同街宣などを振り返り、学んだことや教訓を交流し、維新市政の下での市民1000人委員会の方向を確立するために、6月23日に振り返りのつどいをおこないました。155名の参加があり、18グループに分かれて討議をしました。本冊子はその全記録です。

■オープニング発言（山田憲司さん）

こんなに多くのみなさんが参加されているのは、今回の取り組みというのがみなさんにとって意味のあるものであったからではないでしょうか？！ 今日はその一つ一つを振り返り、自分の中で確かめていきたいと思います。各方面、各区、各委員会からの報告を、自分たちのものにしていきたいと思うのです。なんのために振り返るのか？それは維新市政を一刻も早く退場させる、市民ひとりひとりの暮らしを守る、そのための振り返りだと思います。



市民ひとりひとりの暮らしを守る、

6月12日の野村友昭さんのブログでこうありました。「たらればの話はあまり意味がない。ベストではないが、もっともベターな闘いができました。」こういうふうに仰っています。すべて明日のために今日の集いを、はじまりの集いとして成功させていこうではありませんか。府内からたくさんの方がお見えですが、今日堺で話されたことを自分たちの地域や職場で拡散して、大阪府内の運動にして頂きたいです。

私たちは維新とは違います。一人の司令官がいて、その人が立派な方針を出して総括をして、意見もなく、うんうんと頷くような団体ではありません。一人一人の立ち上がりが維新を退場させ追い込んでいくものであって、そのことを確信して、開会の挨拶とさせて頂きます。

■〔報告と提起〕選挙結果と市民1000人委員会の活動 (前田純一さん)



※P23～資料参照

第1章 報告

1 候補者としてどう闘ったか（野村友昭さん）

選挙期間中は多くの方々にお支え頂きましたことをまずはみなさまに感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。結果のほうはわずかに及ばずということで、私の力不足でこのような結果になってしまったことは、申し訳ないと思っていますけれど、先程よりありましたように、本当に意義のある闘



いはできたかなと、自分自身は出来る範囲のことをすべてやりきったというふうに感じております。当初かなり差が開いているとも言われていましたし、それ以前では無投票で選挙すら行われないというような懸念もありました。

私もいま、少し落ち着いて参りましたし、時間も出来たので、いろいろと振り返りをしているところですが、本当にこの選挙自体がなかつたら、堺市政あるいは大阪の府政というものはどうなっていただろうというふうに思います。残念ながら「大阪府」「大阪市」「堺市」、3つの選挙で負けてしまいましたが、結果、それぞれの新市長の所信表明でもありましたけれど、もうすでに大阪府・市と堺市の組織や施設を統合していくという方針や、あるいは施設等の民営化、大阪に主体が置かれた様々な改悪が進められようとしています。

また「都構想」という政治的な用語が今、公的な文書に登場するというようなことが起きています。選挙が終わってすぐに発行された「府政だより」を見て大変驚いたんですが、おそらくこれから4年間、向こうは権力を握りましたので、様々なことを大阪府・大阪市・堺市で仕掛けてくることを私は心配しております。一番懸念しているのは、大阪府議会の区割りの問題で、おそらく彼らに有利なように変更してくるでしょう。そして選挙で戦わせない方法を、たとえば不意打ちの出直し選挙のようなものもおそらくしかけてくると思います。また法定協議会でも多くのことをしかけてくるでしょうし、一方で、私の古巣の政党や別の政党は、もう大阪都構想そのものに反対することを明言しなくなっていく恐れがあります。こういうなし崩し的な状況の中で、自治体の制度以外のところでも多くのことが勝手にどんどん進められていくようなことがあるんではないかということを私は心配しております。そこで重要なのは、住民のしっかりとした監視、チェック体制であると思います。今日、たくさんのみなさんにお集まり頂いておりますけれど、このような大阪そして堺市が抱える問題について関心の高い方々ばかりだと思いますので、今後4年間、短いようで長い、長いようで短いこの期間をしっかりとみなさんでチェックをしていかないといけないと

考えております。

今日は振り返りのつどいということでございますけれど、私は自分自身のことは後ろを向くということはあまりせず、しっかりと前を向いて進んで行きたいなと考えております。まずはインターネット等でしっかりと活動を始めていきたいと考えておりますので、今後共変わらぬご支持ご支援、また皆様のご協力をよろしくお願ひいたします。



6/4 “みんなでつくろうええまち堺 TALK&LIVE” より

2 「チーム堺」はどう闘ったか（渕上猛志さん）

大きな選挙になりますと、みなさまのような外部の応援部隊が立ち上がったりもしますが、選対本部との間でトラブルが起こりがちです。うまくいかないのは、選対が悪い、あいつらが悪いという具合です。しかし今回は、私の知る限りほとんどそのようなことがなかったというのが、非常に良かったなと思っています。それはひとえに市民1000人委員会の中心メンバーのみなさんの温かいご理解と、候補者の頑張りだったのだと思います。「候補者がこんなに頑張っているんだから、自分たちも」と、そんな空気が自然にできたのだと思います。選対の側にいた人間として、本当に感謝を申し上げます。ありがとうございました。



チーム堺の活動というわけではありませんが、個人的に痛切に感じましたのは、顔の見える人間関係をどれだけ作るかというのが選挙では大事だということです。ぜひ、みなさまには、これから選挙の時だけ集まつたという訳ではなく、常日頃から、こういうネットワークを大事にして頂いて、さらにはみなさんがお住まいの地域でそのネットワークを広げて頂く努力をして頂きたいと思います。

実は前半戦、自民党支持層が半分ほど食われているという危機的な情報がありました。そのため、選対本部では、とりわけ自民党支持層に対する電話作戦を頑張りました。そうすると猛烈にその数字が改善していって、それでも最後は65か70パーセンぐらいだったと思いますけれども、だいぶ大きな力になりました。知合いで電話かけて頼むということが、本当に大事なことだと実感しました。政治への関心が高いみなさんですから、理念や政策があつてこそだと思われるかもしれません、そうでない方が、世の中に大変多いということを知って頂きたいと思います。

とは言え、選挙の時にいきなり「〇〇さん頼む」とは言いづらいものです。ですから日常的にいろんな会話の中で政治の話をして頂きたいと思います。政治の話もしづらいかもしれません、例えば「堺市で保育料が安くなった」とか「高架化に踏み切りの渋滞をなくして欲しいな」とか、どんなことでもいいです。とにかくみんなの日常の中で、政治と生活がすごく密接だということを、いろんなお知り合いの方と会話の中で伝えて頂きたいのです。きっとそれが、市民の政治参画や、選挙の時に「頼む」と言いやすい空気につながると思います。私も頑張りますので、どうかみなさんよろしくお願ひいたします。

3 「住みよい堺市をつくる会」はどう闘ったか（丹野優さん）

私たちは、特に告示後の平日 2 週間、全 27 駅で 18 時半から 20 時まで毎日街頭宣伝を行いました。前回、前々回にも行いましたので、今回、相手陣営も勉強しておりまして、初日から維新の議員さんが、無断で宣伝の動画を撮って SNS にあげるということがありました。5 日目の金曜日には、なかもず駅と北花田駅で、警官が連呼行為や選挙三要素を理由に警告するなど、事実上の選挙の妨害をしてきました。しかし私たちはそれを乗り越えてたたかいを進めました。



今回のたたかいは、チーム堺のみなさんと、今日お越しのみなさん方をはじめ「市民 1000 人委員会」のみなさん、「つくる会」、そして個人で野村さんを支援しようという方々が、本当にフラットに、それぞれが主体者として力を尽くしたことが、最後まで相手を追い上げた大きな力になったと確信しています。6 月 8 日のなかもず駅での市民大街頭宣伝がその力を象徴していたのではないかと感じています。

このたたかいで築いた、新しい市民共同のよりどころと生みだされる力を継続、発展させ、なんとしても勝利したいと思っています。私も微力ですが全力をあげて頑張りたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。



5/28 泉ヶ丘街頭宣伝活動

第2章 活動交流 各区＆各委員会＆各イベント

1 堀区（出来秀人さん）

主に駅前での街宣活動をおこないました。5月2日堺駅東口前3時から4時、約6名で105枚のチラシを配布させて頂きました。5月5日開口神社、3名にて配布、179枚。さつき祭りのイベントに合わせ、もぐりこんで配布しました。受け取りはなかなか良かったです。

5月7日、南海七道駅前、朝7時半から8時半まで、配布者1名で22枚。15日は堺駅東口で5時から6時まで、参加者8名で約350枚ほど撒きました。5月17日、JR堺市駅前では6時から7時まで200枚・・・

（あと堺区各所で12回ほどチラシ配布などの街宣活動を行いました）。結果的には堺区での票差は96票だったんですね。もう少し踏み込んでやっていれば対立候補との票差を上回れたかと思いますが残念至極です。



2 北区（小西照夫さん）

北区では2つの駅で維新の妨害行為がありました。現職の市会議員が警官を連れて妨害をやられましたが、北区のみなさんはそんなことを屁とも思わず、元気よく宣伝をして頂きました。

北区は3回、一斉にビラを撒いて頂きました。一回目はそうでもなかったです。二回目は少し、三回目は爆発しました。そういう状況でわっと広がったんですが、残念なことに北区は一番票が少なかつたんで、それは維新の妨害行為のひとつの彼らの成果やったと思います。特に市会議員のIさんですが徹底的に我々を妨害しました。中にはやくざまがいの口調で「わしの地元でなにさらすねん」と、ほんまにYのやくざのMの子分かと思いました。ですからこれからは維新をいかに市民のみなさんに知らせるか、その活動が大切やと思いました。



3 美原区（東摩耶子さん）

4月30日に初めてこの会に参加した時は美原区から一人でした。それでビラ配りも一人でするのかなと思っていたら、応援の方を紹介されて、新しい出会いがあり



ました。今回良かったことは、そんな新しい出会いがいくつあったことです。特に美原区は堺市と合併する時にいろいろとありまして、ちょっと一緒にやるのが難しい面があったんですけど、その壁を乗り越えて一緒にやることが出来て、良い取り組みだったと思います。

毎日私たちは区役所前で、最後の週の6日間、スタンディングをやりました。その前にやった時の反応はものすごく悪かったです。「そっちのビル、私維新だからいらないわ」キッって感じだったんですけど、最後のほうは「投票に行きましたよ。野村さんに入れましたよ」っていうふうな方が何人もおられて、毎日やるってことの大切さを感じました。もちろん全体の1000人委員会もですけど、私たちの反省会で、「新しい出会いがあって、これからも美原の1000人委員会としても続けてやっていきたい」ということを確認しました。

4 西区（永廣紀美子さん）

西区で一番残念なのは他の行政区のように1000人委員会の市民のつどいが出来なかつたことです。1000人委員会のチラシとか野村さんの法定ビルについては、本当にみなさん、さっさーと配つて頂いて、スーパー前宣伝も3回出来てそれは良かったんですけど、やっぱり賛同者の方に手紙とか電話でいちいち連絡する余裕がなくつて、これからこの取組み、メールアドレスを正確に登録して頂くのがすごく大事だなと思っています。



私が一番印象的だったのは、期日前投票の区役所前スタンディングです。月曜から土曜までやつたんですけど毎日、劇的に市民の方が変わっていって、最終日なんて車からも手を振ってくれる、みんな声かけてくれる、いや野村さんすべりこみセーフでとおるわと思って私は胸がドキドキしてきたんですよね。でもね、対話してたらね、都構想絶対反対やとかね、もう維新なんか顔見るのも大嫌いや言うてる人が、「え？そんなら僕、野村さんに入れることになるの？」とか言うから「そうですやん、ちゃんと入れてきてくださいよ」とそういう人が何人もいてたんですよ。で逆に、都構想賛成やと機嫌良うシール貼った人と対話したら「そうかな、そうかな」と首かしげて区役所の中に入つて行って、出てきたとき「入れたつたで」とか言うてね。私はすべての投票所に当日立つのは数は大変だけど、期日前投票は区役所って限られているから、やっぱりこの取組は今度からやらなあかんと感じました。

5 中区（大町英三さん）

維新市長に対抗する市民政策づくりと市民要求の実現をめざす闘いが今スタートだということで、全国一の教育政策学び教育条件拡充めざし、ぜひ実現させたいと思っています。昨日、教科書問題で枚方に行きました。枚方では堺でやっているマイスタディ事業（放課後や長期休業中、児童生徒の学びの状況に応じたきめ細かな学習指導を通して、一人ひとりの学力及び学習意欲の向上を図る事業）みたいな所から退職教職員や教育関係者が全部排除されて、ベネッセなどの塾産業に置き換えられている。維新の伏見隆市長になって、そういう世界に変わっている。堺でも気をつけないといけない。教育委員も漸次入れ替えていきます。副市長とか。そして向こうの政策を立案させてくるわけですね。



課題を提起します。学習の場。市会議員団のみなさんのような方々と、年に数回、学習の場を作り私たちのレベルアップ、そして幅広く市民に広げること。それから会計対策の確立等もやって頂きたい。

6 南区（小川たか子さん）

南区には泉北高速の3つの駅がありますので、そこでは「つくる会」の方が主に毎日のようにやって頂きました。5月19日、梅文化会館で南区のつどいを開き、その時の参加者が130人ありました。それから6月6日、野村候補を迎えてビッグアイで集会をやりました。参加者は103名でした。



その時に、障がいを持たれたお子さんとお母さんに前でお話をして頂きました。岸和田の市長が維新に変わった時、障がい者に対しての援助金を打ち切ってきたと聞いたので、堺では絶対に維新の市長になってほしくない、維新の市長になるとこの子たちは生きていけないんだ、仕事も出来ないんだということを訴えられました。それを聞いて会場にいたみなさんは選挙をしっかりと頑張っていかなあかんという大きな課題を与えて頂きました。

南区では南区らしい動きができたと思っています。南区は非常に維新が強い地域ではありますけど、誰が入れたんやといつも私は言っていますけど、維新に対して私の周りではしっかりと伝えてきたつもりです。これからは後ろを振り向かず、しっかりと野村さんを支えていきたいと思います。

7 SNS 委員会（立石篤史さん）

インターネットを使った選挙という点を考えると、今回の選挙が終わった時に年代別の投票率を出しているところがある、それを見ると30代以上は、もう全て維新の候補者の得票率が高かったんですが、唯一20代と18歳19歳を含めた20代以下というところは、野村さんの得票率の方が高かったというデータがありました。その世代は、N国の大花さんにも10%くらいの票が入っていました。今の若い人たちはテレビよりもインターネットの情報を重視して判断してるんじゃないかなと思います。テレビでは維新の不祥事というのほとんど報道されないですね。丸山穂高は炎上しましたが、選挙違反で逮捕された不破忠幸とか長谷川豊とかもほとんどテレビでは報道されなかったんですけど、でもインターネットではそういう情報は溢れていたんで、それを見た若い人たちは、なんや維新なんか全然あかんやんと思ったかもしれないですし、野村さんのマニフェストの動画はすごく良かったと思うので、あれを見て野村さんに入れようと思ったのか。あと、今の20代の子たちって10代の時に維新の教育政策を受けてきて、それに対する不満が結構あるという話を聞いたことがあります。



なのでそういう若い人たちにこれから自分たちがSNSで、特別区になったらこれだけデメリットがありますよということを伝えていって、その若い人たちが自分たちの親の世代にもそれを伝えていってもらうような活動ができればいいんじゃないかなと思いました。その為には野村さんとたとえば柳本さんとで、YOUTUBEで動画を創るとか、そういう活動を今後できればいいんじゃないかなと思いました。

8 広報委員会（渕上哲也さん）

広報委員会としてやったのは、一つはキャッチフレーズを作ったんですが、これを作った時はまだ野村さんは名乗りをあげておられず、誰がなるか分からない状態で仮のものだと思ったんですが、結局最後まで使いました。これにこめた意味は、敵は誰なのかと考えた時に僕たちの敵というのは、分断と対立を煽る維新のやり方が敵であって、維新の支持者ではないんじゃないかなと思ったんですね。なのでここに「みんな」という言葉を入れるようにしました。選挙は終わったんですが、これから



も僕らの敵というのは、維新の向こうにある対立と分断を煽るやり方ではないかなと僕は考えます。

やがてチーム堺が誕生し、そこでは広報的なこともやられていたので、広報委員会としては戦略的に何かを前にだすということはしなかったですが、僕らには2つの広報の武器がありました。一つはネットでした。しかしそれに携わる人間が維新に比べてあまりにも少なかったです。マンパワーが足りなかった。もう一つは街宣でした。各地で立ち上がって非常に良かったんですが、たぶんやり方の精度をもっとあげていくことができると思います。それは対話を重視していくやり方です。こちらの言いたいことを一方的に言っても耳を塞がれますので、向こうの言いたいこと、そしてこっちと対話する中で何かを見出していくことが今後大切だろうと思います。

9 イベント「土佐いく子先生の子育てが面白くなる話」（塩野直美さん）

当日は平日の夜だったんですが、子育て・教育に关心のあるお母さんたちが集まって頂いて、土佐先生の話の中でも、感性豊かな子どもに育てるためにはひとりひとり子どもに寄り添って共感するということは家庭でも学校でも大切だというお話があったりとか、本物の学力はどういうものかという話の中で、学力テス



トは学力を測るものではなく、優劣をつけたり格差をつけたりするもので、本当の学力を測るものではないという話がありました。そして維新がやってきた政策は現場の先生たちを大変にしているという話のあと、野村候補にも短時間だったんですが来て頂きました。野村候補は大人向けの政策ではなく、子ども目線に立った教育に支援していきたいという話があって、すごく腑に落ちたところがあってみなさんもとても傾いて聞いていたのが印象的でした。私たちの世代にとっては、子育て・教育の問題は身近なことなので、そういうところから関心持ってもらうのはとても大事なことだと感じました。

10 イベント「シェルトンさんと考えるこれからの堺の学校」（荻野豪さん）

他のイベントと被っていてどうなるかと思いましたが、当日は22人が来てくださいました。シェルトンさんは元PTA協議会の会長でもあり、堺の民間人校長を経験された方で、親と先生の立場として語って頂きました。シェルトンさんは、先生は大切や、先



生を守らなあかんという気持ちでお話をされました。先生はどんどん課題を増やされすぎている、今の学校は失敗を恐れすぎ、正解を求めすぎ、マニュアルを求めすぎている、そういうきらいがあるということをお話されました。

いま、教育を考えていくにあたって、失敗を認められる学

校づくりをしたいと訴えられました。当日は保護者の方、元教員の方、地域の方など多彩な方々が来られてまして、大変盛り上りました。若い先生にシェルトンさんのお話を伝えたいとか、学校が若い先生を守っていくそういう雰囲気にしていきたいなということが語られました。やって良かったのは、参加されたお母さん方が、特に今の市長選挙に本気になって立ち上がるきっかけになったかなと思っています。野村候補は教育予算割合を政令市1番にする、小中学校体育館にエアコンを設置する、学校の先生を増やすなどの政策を掲げられて、本当にこの方なら学校現場がもっとよくなっていくというのは私自身感じました。今後もそういうことを実現したいと思いますので、市長になれなかつたんですけど、そういう声を保護者のところでひろげたいと思えるイベントでした。



11 イベント・クロスブリードパーティー～踊れ踊らされる前に！！（山部聰さん）

選挙とか政治に若い人が興味関心を持って欲しいということと、いろんな人が集まるイベントをしたいと思い、「クロスブリードパーティー」という名前を付けて、飲んで歌って踊って、とにかく体を動かして感じようというイベントを企画しました。池田かずさんには歌を歌ってもらいまして、森田こういちさんにDJをして頂いて、参加者には「私の願う堺市」というアンケートを書いてもらいトークのコーナーを作って、そこで渕上さんや森田さんにそのことについて答えていってもらうというイベントです。そこに最後、野村さんに来て頂いたんですけど、野村さんはそういう趣旨とは知らずに来て頂いて、もう何が何か分からぬまま一緒に



踊って頂いて、選挙がんばろーみたいなことに…（その節はすみませんでした）。参加者は大学生の方からベテランの方までいろんな方が30名集まって、第一歩としては良かったかなと思っています。今回のことだけに限らず、選挙とか政治は自分自身の暮らしにつながることなので、またそういうことを企画してやれたらいいなと思っています。



第3章 グループ討議

※18人の方々からのグループ討議のご報告は割愛させていただきました。

1 良かったところ

① 市民 1000 人委員会について

- ・候補者が決まらない段階から 1000 人委員会が結成された。
- ・事務所が開設されたこと。
- ・堺市の抱える課題を市民が認識し「チーム堺」「市民 1000 人委員会」が誕生し、持続的な組織としてこれからの動きにつながるものが残せたこと。
- ・チーム堺、1000 人委員会、つくる会の人間的つながりが出来、堺に温かみのある組織ができた。
- ・各区責任体制や、いくつかの委員会が設置されたこと。
- ・1000 人委員会の事務所はいつも Welcome の雰囲気で手伝いやすかった。
- ・1000 人委員会が、市長選のために何かやりたいと思っている個人が集まる場となった。



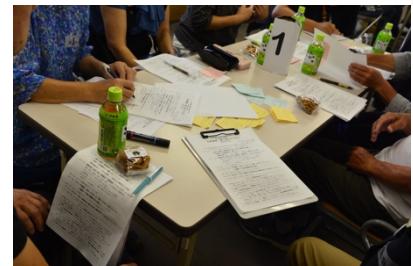
② どのように闘ったことが良かった？

- ・みんなが主体者。
- ・選挙戦に対して当事者意識を持って参加した人が多かった。
- ・政党任せにしないで市民の力で自分たちの候補者を作り出そうという運動が始まった。
- ・堺の町のひとりひとりが自分の意志で立ち上がり、繋がっているのが感じられた。
- ・支持政党の違いを乗り越えて、思いを共有する(反維新)仲間が気持ちよく力を合わせられた。
- ・いろいろな市民団体がそれぞれの立場で政令市の良いところを積極的に宣伝したこと。
- ・「党」に関係なくチーム堺で闘えた。
- ・相手の批判をせず、政策を訴え続けたこと。
- ・「維新が悪い」という言葉ではなく、なぜ都構想がダメなのかという視点での政策づくりが良かった。
- ・選挙活動を知らない素人が多いのに頑張った。
- ・良識を掘り起こせた。
- ・堺の今までの政策が素晴らしいことをあらためて学習できた。
- ・維新市政の悪いところを知り、他の人に少しでも伝えることができた。
- ・各駅でのビラ配り、連呼が良かった。

- ・路地裏選挙ができ、対話がたくさん出来たこと。
- ・友人 10 人（ママ友中心）程に思い切って野村さんの政策を話せたこと。
- ・子育てイベントとうまく絡めた。
- ・子育てに関係する具体的な公約が多くママ友に自然に話せた。
- ・野村候補の子育て支援政策は子を持つ親にとっては非常に共感を持てた。今後も実現の為、堺は一つで頑張っていきましょう。

③ そして、どうなったことが良かった？

- ・短期間でここまで出来たことは市民運動として大成功である。
- ・選挙後にも皆さんのが繋がりが多く残ったこと。
- ・市民の輪が広がり、協力体制が広がった。
- ・普段は政治に興味のない人も、都構想 NO の話をすると関心を示してくれた。
- ・維新の悪政をあぶり出しきれた。それが 12 万もの票数になった。
- ・堺で維新勢力を追い詰めた。
- ・最後の追い上げがすごかった。候補者と市民運動との一体感があった。
- ・堺への愛着が深まった。
- ・多くの方と知り合いになることができ、楽しかった。
- ・若い人たちのアイデアがよく生きた。
- ・本当に実現したい政策が訴えられていて、政令市堺を守って発展させたいと思えた。
- ・今後も維新へのプレッシャーとなる堺市民の意地を見せられた。
- ・ファクトチェックが良かった。これがビラになればもっと良かった。
- ・市内の各エリアが抱える問題に関わる対策が講じられた (ex. 府大周辺へのポスティング)
- ・若い人たちに堺市政の話ができた (ex. 府大周辺)
- ・美原区に市民運動の活動拠点が出来た。
- ・メガホンを途中で使えなくなったことで、対話重視の宣伝になり、より政策を個人に訴えやすくなかった。
- ・つくる会の日刊チラシを若い人が受け取ってくれた。堺とその歴史文化を大切にしている内容が良かった。
- ・6/4 の集会で野村さんの訴えを直接聞くことができ、そして川口真由美さんの歌に元気をもらった。



- ・維新市政では重度加算がゼロになることが学習会を通じて知ることが出来た。
- ・挫折感がない。

④ ビラやその他に関して

- ・全戸配布のビラを準備し、ボランティアを配置できた。
- ・駅頭宣伝ビラは具体的で良かった。
- ・イメージカラーやロゴのデザインが良かった。
- ・法定ビラ、インパクトがあった。



⑤ 野村さんについて

- ・野村さんという人物、人となりを知ることができたこと。
- ・野村さんは自民を離れて無所属で闘った。
- ・野村くんは素晴らしい候補者であり、応援できたことを誇りに思える選挙であった。
- ・候補者のトークや態度や全てに、実力を發揮できる感を受けたので、立派に思い感銘した。
- ・野村さんの政策市民目線で分かりやすかったので、訴えることも出来た。
- ・今まで選挙には前向きに取り組んだことはなかったが、野村さんの思いが私を動かした。

⑥ SNSについて

- ・ツイッター入門講座があったこと。
- ・ツイッターでしっかり闘ってきたこと。
- ・チーム堺、1000人委員会、つくる会でのSNSコンテンツがそれぞれ充実しており、堺への理解が深まった。

2 悪かったところ

① 組織として

- ・候補が決まるのが遅くスタートが出遅れた。
- ・連絡が密ではなく、きっちりした流れが分からなかった。
- ・選対本部との戦略の共有に乏しかった。
- ・選対やつくる会との全体会議が中盤で形成されたこと。
- ・委員会の全体像が分からず、今日の活動がどういうものか分からなかった。
- ・指揮系統がはっきりしないので右往左往した。
- ・応援体制がバラバラ。外形上の共闘はできないとしても実務的で水面下の共闘を工夫すべ

きであった。

- ・共同や連携は私たちにはよく見えていなかった。
- ・自民党青年局関係者との親交が深まったが、市民はこのように共闘できていないだろう。
- ・チーム堺が分かりにくかった。チームの位置づけと市民の立場の兼ね合いが。
- ・選対本部のスタッフの一人として参加したが、方向性がよく分からぬところもあった。
- ・にわか仕立てであり、自分の立ち位置が分からなかった。
- ・盛り上げに欠けた。街宣は見なかった。会の中は盛り上がっているが…。市議会議員の動きが見えなかった。
- ・地域での組織化が出来なかった。
- ・各区の様子が分からなかった。
- ・西区の横の繋がりが希薄。
- ・妨害に毅然と対応できなかった。



② 政策について

- ・超高齢化社会への対策がよく見えなかった。
- ・維新支持者に野村さんの政策をきちんと伝えられなかつた。
- ・都構想が争点にならなかつたこと。
- ・維新の何が悪いのかを具体的に市民目線で伝えられていなかつた。
- ・子育て世帯に魅力的な公約がたくさんあるのにみんな知らなかつた。

③ 広報について

- ・急に市長選となつたことで市民への理解、周知が遅れた。
- ・SNS 対策が不十分だった。ネガティブキャンペーンをしなかつたのはマイナスでは？
- ・SNS では維新に圧倒された。
- ・相手候補側からデマ、中傷をファクトチェックで抑え込んだが、振り回された感は残つた。
- ・立花候補者が予想以上の得票だったので、ネガティブキャンペーンが必要だったのでは。
- ・広報（マンパワー）がどうしても維新にかなわなかつた。
- ・「堺はひとつ 堀をなくすな」のようなインパクトのあるワンフレーズが欲しかつた。「堺を消滅させるな」「堺市消滅の危機」など。
- ・「堺市を無くしてええんか」の訴えを全面に出せばよかつたのでは？
- ・連合自治会、商店連合会、医師会など多くの官製団体、業界団体との対話、話し合いをも

っとすれば良かった。

- ・おでかけ応援バス制度は 15 万人が対象。この人たちへのアピールがもっとあれば選挙は勝てた。
- ・60 代の人に情報が届いていない。
- ・若い人々に対する働きかけが弱かった。
- ・昼間堺にいない層に声は届いたのか？
- ・直接対話が少なかったこと。
- ・SNS を知らずに残念。

④ ポスティング&ビラ、ビラ配り、街宣について

- ・宣伝のチラシをもっと視覚的に訴えるものを。ポケットに入る小さなものに。
- ・候補者名の入ったビラが遅く、少なかったこと。
- ・ポスティングの場所が重なっていた。
- ・告示以降、野村候補のビラは 1 枚もポスティングされなかった（北区北花田町 1 丁）。チーム堺内の連絡体制や責任は？
- ・ビラ配りの連携は？ 区ごとの統一の司令塔が欲しかった。
- ・ビラ配りや街宣の十分な相談ができず、行き当たりばったりの取り組みになったこと。
- ・駅前のビラまきに警官がうろうろしていて、やりにくかった。
- ・連呼やメガホンの規制に不満。
- ・街宣などの呼びかけが画一的であった。
- ・区によって街宣車が回ってこなかったこと。
- ・候補者が若いにも関わらず、若年世代の街頭ボランティアが少なかった。
- ・無関心層とのつながりやひろがりがあまりなかった。
- ・市民との対話が不慣れだったこと。



⑤ 市民の声

- ・両候補者とも同じようなことを言っていて違いがわからなかったという市民の声があつた。
- ・「どっちもどっちやな」という一般市民の声も聞こえてきた。
- ・陵南町では「維新が勝つと地下鉄が延伸されて駅ができる」というデマが流れた。
- ・野村さんの公約が分かりにくかった。

- ・光明池にはあまり御本人が来られず残念でした。

⑥ 竹山前市長に関して

- ・竹山政治資金報告書を、竹山を応援した市民の誰もチェックしてこなかった。
- ・竹山前市長の政治資金問題に厳しい態度をとっていないイメージを与えた。

⑦ エトセトラ

- ・もっと多くの市民が野村さんの話を聞く機会があれば良かった。（維新の政策との違いが理解できる）

- ・投票率が低下したこと。
- ・維新の動きを知ることが出来なかった。
- ・柳本さんもそうだが、将来の市長候補として育てていく過程にある野村くんを、捨て駒として使ってしまった。
- ・市民の市長候補を推したてる土壤がまったくない
- ・教育のことやニュータウンの孤独死のことなど、もっと知らせたかった。
- ・自民党支持者が維新に票を入れていた。
- ・美原区の人々の反応が薄かった。
- ・福祉まつりで妨害があった。
- ・石破氏の応援についての賛否。
- ・津久野駅前、泉ヶ丘駅前で自民党の集会。顔が見えない。ビデオメッセージが欲しかった。
- ・「つどい」関係にママ友を連れて来にくい…。
- ・ママ友に野村さんとの話をしたら「え？直接話せんの？」とおどろかれた。直接話せる機会が大切。



3 今後の課題や取り組み

① 次の選挙にむけて

- ・闘いのためのリーダーを早く打ち立てる。
- ・一刻も早く維新から市政を取り戻す。
- ・市民の手で市長を選ぶこの経験を引き継ぎたい。
- ・次回も野村さんに出馬していただく。
- ・2年後に市長選をと維新は考えているので、今から市長選の準備をする。

- ・公職選挙法の学習と対策をする。
- ・今夏の参院選で、反維新候補の応援を積極的に行い、市民間での連携の幅を広げる。
- ・名簿を作つて電話作戦をする。
- ・維新の妨害対策
- ・SNS の活用。SNS 対策の強化。
- ・街宣車は団地の上から見てもわかるように屋根にも工夫をする。
- ・街宣の文言を数種類用意する。
- ・期日前投票場所である区役所前での街宣を確実に行う。
- ・もっと選挙公約を体系的にわかりやすく広報ビラに表現した方がいい。
- ・落選運動は選挙運動にあたらぬいため、今から選挙期間内でもできる運動です。
- ・ひとりで 10 人をくどけ。

② 市民 1000 人委員会は？

- ・市民 1000 人委員会とチーム堺が連携してやっていく。
- ・市民 1000 人委員会を存続させる。
- ・チーム堺の存続を。
- ・さらにネットワークの拡大と強化
- ・具体的な行動提起。組織としての指揮系統の確立。



③ 活動について

- ・4 年後までのタイムスケジュールを作る。
- ・各区の自発的取り組みを。
- ・勉強会を継続し、発信していく。
- ・子育て、教育、地域、暮らしに密着した市政と私について気楽に語れる場を定期的に作る。
- ・堺市政をしつかり見つめ、小さなことでも市政へ積極的に提言していく。
- ・永藤市政をしつかり監視し、チェックを怠らない。
- ・永藤、維新支持者に諦めず働きかけていく。
- ・分析委員会を作れ。
- ・市民政策の要請活動。
- ・要求で行動、交渉で前進、社会保障・生活指導・障碍者。
- ・市民、職員いじめをさせないよう常に監視する。
- ・市職員の公務を市民の立場から応援する。

- ・他市の維新市政をチェックし、それが市民にとってどうなっているかを調べ、堺市民に分かりやすく伝える。
- ・政治や選挙をもっと面白くわかりやすく。
- ・日常的な地域に根ざした活動。普段から周囲の人と政治の話をすることが必要。
- ・政令市だからできることをもっとアピールしていく。
- ・若い人がもっと政治に関心を持ち、選挙に行くような取り組みを。
- ・市政を身近に感じられるような取り組みを継続的におこなう。
- ・ファクトチェックの力を各場面で活用していく。
- ・子どもたちの健全な成長のために人間力重視の政策を提言する。
- ・平和と市民の暮らしを守る活動を、それぞれの立場から遂行する。
- ・仲間づくりや若い人を育てることが大切。
- ・ニュータウン、ニューファミリー層に対しての働きかけを考える
- ・維新を助けることは安倍を助けることになると宣伝する。
- ・維新はファシズムであるので、ナチスドイツと比較して喧伝する。
- ・副市長に堺出身の島田憲明氏が決まったのは、一筋の光となる可能性が？
- ・野村さんが生き生きと活動ができるような保障を。
- ・野村さんに保育園の関係者（専門家）として堺の子育て教育について発信してほしい。
- ・SNSには高齢者はついていけないので、他のわかりやすい手段を考えてほしい。
- ・ネットの活用方法を分かりやすく。

④ 都構想について

- ・大阪府市との連携
- ・きちんとした都構想の学習と、その中身の劣悪さの拡散。
- ・大阪都構想 今、東京 23 区が市になりたいと言っている。特別区がいかに自治を奪い不合理なものであるか、しっかりと情宣していく必要がある。
- ・都構想参加への議案提出を阻止する取り組みを 3 団体で。
- ・都構想だけでなく様々な政策を考えしていくことが大切。



⑤ 具体的活動について

- ・資金作り、会計体制の確立。
- ・市議会の傍聴。

- ・パブリックビューイングを使っての街宣。
- ・同じユニフォームを着て、明るく、音楽を取り入れながら宣伝する。
- ・同じユニフォームを着ている人たちの周囲に様々な格好をしている人たちが集まっている構図が必要。
- ・対話方法の学習。
- ・宣伝は視覚に訴えるものに工夫する。
- ・都構想の杜撰さと堺の施策の素晴らしさのパンフを作る。
- ・チーム堺のロゴが入った自転車カゴカバーを作る。
- ・チーム堺寄席を各区で行い、落語を聞いて、堺のことや都構想の勉強していく。
- ・駅立ち、チラシ配りは笑顔で。
- ・大阪市の住民投票への協力。
- ・大阪市住民投票で反対多数にするため、「大阪『都』にはなりません」「大阪市は村以下に」などインパクトあるポスターを作る。
- ・今年は小学校教科書採択の年で、現在図書館で展示されている。道徳など、たくさんの方に見ていただき、中身に疑問があればぜひ意見を書いて出してほしい。維新の首長の市では、まず教育長を替えられている。

■【まとめ】市民1000人委員会の今後の方向（門哉彗遙さん）

市民1000人委員会を存続させるべきだという発言が多かったですので、この場でそれを確認してほしいでしょうか？（拍手）はい。でもどうやって続けるんでしょうか？まずお金がいりますよね。今回の選挙で市民1000人委員会がやってこられたのは、みなさんからの寄付があったからです。事務所や人件費をどうしていくかは、これから課題です。また市政チェックや学習会を持つことに関しても具体的にどうするのか、参議院選挙が終わってから、新しい事務局で話し合っていきますので、またみなさんのお知恵を拝借させてください。



■締めくくり発言（高橋保さん/元堺市副市長）

今日、皆さん方のお話を聞きながら、改めて決意を新たにしました。負けたのですよねこの選挙。負けた後にね、みなさんと一緒にこういう「振り返りの会」、これからどうしよ

うかなんていう話し合いができる選挙なんて、日本広しと言えども、私はこの堺だけではないかと思います。

みなさんが触れられなかつた点についてのみお話させて頂きます。それぞれの政党支持別、あるいは支持政党なしの方がどこに投票されたか、報道機関の調査の結果、維新を支持されている方は躊躇なく、ほぼ全ての人が維新候補者に投票されたとのこと。これは何を意味しているのでしょうか？

当選された時に永藤さんは、「デマにやられた」こう言っていました。驚きました。私たちは維新こそがデマを言いふらしていると言って来たのですが、でも彼はテレビの前で確かにそう言ったのです。え、どういう事？ 彼は4年間の任期中は堺を大阪都にはしない。しないと言っているにもかかわらず、財源が奪われるなんてことは全部嘘だと言っていたのですね。支持者から何度も何度も聞かれたと言っていました。

その言を信じ維新を支持されている人達は、争点隠しと批判されればされるほど、自分が批判されているというふうに受け止められたのではないでしょうか？ 維新と維新を支持されている方たちとの間に楔をどう打ちこんでいくのか。これは市政の具体的な検証によってやるしかありません。



早速動きがあります。先程、堺の市の職員であった人が副市長になったという報告がありましたが、その前に大阪府の総務部長が筆頭副市長としてやって来ます。総務部長は大阪府の部長の中でもトップです。小西さんは副知事になられる以前、総務部長でした。つまり総務部長は副知事になったり知事候補になったりするポジションでもあるのです。その人がわざわざ格下の堺の副市長になってやって来る。それがどういうことか。一目瞭然、府、市間の齟齬が生じないようにするために大阪府からやって来るのであります。誤解を恐れずに言えば、大阪府の意向に堺市長を従わせるその役目を持って来られたのだと思います。これは大いに警戒をしなればなりません。

大阪都に向けての下工作を具体的に見極めてひとつひとつ検証していく、そのための場が必要であるというみなさんの意見に私も賛同いたしますが、具体的にどういうふうに作っていくのかは、これから一ヶ月半かけてご検討されるということですので、是非しっかり議論を重ねて欲しいと願います。以上、皆さん方と共にこの選挙を些かでも闘えたことを誇りに思い、今後共、堺市政の変質は許さないという闘いに私自身も力を尽していくたいという決意を申し上げまして、締めくくりの発言にしたいと思います。

選挙結果、市民1000人委員会の活動報告と今後の課題

- *前市長による多額の政治資金不記載が原因となった市長選挙
大阪ダブル選挙での維新候補の圧勝（堺市：吉村20.4万、小西13.3万）
堺市議選でも維新得票の増加（前回9.9万→13.3万）
- *候補者擁立の遅れ（維新側は連休前に内定、野村氏の出馬表明は5月17日）
この困難極まる局面を大きく転換し、市民の心に火を付けた**野村さんの決断**
- *当初そして告示日段階でもダブルスコアの差と言われていた劣勢
- *選挙結果 1万4千票の僅差まで追い詰めた、終盤の猛追。この中の維新の得票減
当初の政治不信の蔓延や無関心を跳ね返しての盛り上がり
維新票は固定（むしろ漸減） 投票率をあと一步伸ばせなかった
- 今回 有権者69.2万人 投票率：40.83%
野村友昭氏 123,771（得票率：44.39%）
永藤英機氏 137,862（得票率：49.45%）
- 2017年 有権者68.9万人 投票率：44.31%
竹山修身氏 162,318
永藤英機氏 139,301
- 2013年 有権者67.5万人 投票率：50.69%
竹山修身氏 198,431
西林克敏氏 140,569
- ***論戦の力**が猛追を生み出した：維新は「都構想」論議を隠し、抽象的な「府市一体の成長」を叫び、あとは政治とカネなどで様々なフェイクをばらまき、こちら側への口汚い攻撃に終始したのに対して、野村氏・「チーム堺」側は地道で細やかな市民サービスの政策を、これまでの成果と今後の見通し含めて提起し、そのためにも政令市維持が必要だと愚直に訴え続けた。維新のフェイクを暴く「ファクトチェック堺」は大きな影響力を発揮した。
- ***チーム堺による横一線の連携**：選挙態勢でも、野村陣営「チーム堺」は「住みよい堺市をつくる会」や「1000人委員会」など市民グループの創意を包み込み、連携する態勢を作り、気持ちの良い連携が作られた（大阪ダブル選挙との決定的な違い。これまでの堺市長選挙よりも前進）。
- * **1000人委員会**：4月23日に起動。候補者が決まらない中で活動をスタート。5月6日のスタートのつどいに250名の参加。多くの市民の危機感と怒り、起ち上がろうとする意欲の結集の場に。714名が賛同登録。2回の独自フライヤー作成と配布。各区毎の行動体制・つどいが企画され、若い人の立ち上がりと下からの創意工夫、自発性が芽生えた。堺区6万枚×2回のポスティング（自治労、教組退職者会の力も借りて）。市民集会、市民共同大街頭宣伝行動。
- ***これからの課題**（グループ討議のテーマ）：永藤市政の監視と市政奪還に向けた体制作り。
 - ・野村さんを市政監視のリーダーとして支えることができるか
 - ・チーム堺は横断的組織として日常的な活動を継続できるのか
 - ・1000人委員会はどんな役割を果たすことができるか（活動内容、体制、財政。市政情報の収集等）。

市民 1000 人委員会の主な活動日程

- 4月 22日 竹山前市長辞意表明
- 23日 市民 1000 人委員会立ち上げ
- 25日 第1号フライヤー入稿 (1. 2万枚)
- 30日 第1回会議 (49名)** *賛同登録を 1000 人に／候補者を待たずに活動スタートする
 *市政の刷新は市民の手で行う／維新には言わせない
 *9年半の市政は市民共同で作り出してきた。その施策を更に市民が前進させていく。
 前向きでポジティブなメッセージを市民に届ける／それを政策委員会で整理する
 *政令市を特別区に転落させる都構想を争点に取り上げ、争点隠しは許さない
 S N N 委員会起動：Facebook、Twitter、Instagram 発信開始
- 連休中 各区で創意工夫あふれた行動（堺区、美原区、中区、北区、南区等）
- 5月 1日 キャッチコピー委員会「みんなでつくろう ええまち堺」「もっとかがやけ みんなの堺」
- 6日 スタートのつどい (定員 108名に 250名)**
 提起：森裕之立命館大学教授 長谷川俊英堺市議
- 連休明け 各区毎に、駅前・スーパー前等の街頭宣伝が次々と繰り広げられる
- 11日 第2回会議 (40名)／市政の到達点示す第2号フライヤー入稿 (2万枚)**
- 16日 出馬を決意された野村友昭さんと市民 1000 人委員会との面談
 政策、都構想、自民党離党、チーム堺での態勢などの決意を伺う
- 17日 野村ともあきさん出馬表明
- 18日 twitter 初心者講座 (10名)
- 19日 第3回会議 (72名)** 野村友昭さんを支援候補として決定／野村さん決意表明
- 20日 堀東駅前に事務所開設／専従者配置**
チーム堺・政策ビラ：堺区全域 6万枚 × 2回のポスティングスタート
- 25日 元民間校長ジョン・シェルトンさんと考えるこれからの学校 (22名)
- 26日 告示
- 28日 中区：「都構想」を考えるつどい (13名)
- 29日 美原区：笑福亭竹林さんと堺の子育てと教育を語る会 (野村候補参加) (26名)
- 30日 土佐いく子先生の「子育てが面白くなる話」 (野村候補参加) (30名)
 南区：緊急市民集会 (野村候補参加) (103名)
- 6月 1日** twitter 初心者講座 (6名)
- 4日 都構想反対 みんなでつくろう ええまち堺 TALK & LIVE (250名)**
 エイサー・川口真由美ミニライブ・映像・市民スピーチ (野村候補参加)
- 6日 『クロスブリードパーティー』～踊れ！踊らされる前に！！ (野村候補参加) (35名)
 府立大学周辺で府大と市大統合反対 3000 枚ポスティング
- 7日 北区：政令市の財源を活かし堺の未来を語るつどい (野村候補参加) (130名)
- 8日 みんなで語ろう堺の未来 市民共同大街宣@中百舌鳥駅前 (250名)** (野村候補参加)
- 9日 投開票
- 23日 振り返りのつどい** (野村さん参加) (155名)

資料 3

開 票 速 報

令和元年6月9日 執行 堺市長選挙 確定

届出番号	候補者名	堺区	中区	東区	西区	南区	北区	美原区	合計
1	野村 ともあき	23,022	16,415	14,895	18,978	21,016	24,493	4,952	123,771
2	永藤 ひでき	23,118	17,628	15,018	21,758	27,855	26,068	6,417	137,862
3	立花 孝志	2,483	1,894	1,399	2,268	2,587	2,876	603	14,110
得票数計		48,623	35,937	31,312	43,004	51,458	53,437	11,972	275,743
按分切捨票		0	0	0	0	0	0	0	0
いづれにも属さない票		0	0	0	0	0	0	0	0
有効投票		48,623	35,937	31,312	43,004	51,458	53,437	11,972	275,743
無効投票		519	355	339	469	616	664	103	3,065
投票総数		49,142	36,292	31,651	43,473	52,074	54,101	12,075	278,808
無効投票率 (%)		1.06	0.98	1.07	1.08	1.18	1.23	0.85	1.10
不受理		0	0	0	0	0	0	0	0
持帰票		1	2	0	0	0	0	0	3
投票者数		49,143	36,294	31,651	43,473	52,074	54,101	12,075	278,811
開票率 (%)		100	100	100	100	100	100	100	100



市民1000人委員会
みんなでつくるう ええまち堺

2019 年堺市長選挙
たたかう堺市民
～振り返りレポート～

2019 年 7 月 20 日発行
編 者 市民 1000 人委員会
発行者 市民 1000 人委員会
〒590-0959
大阪府堺市堺区大町西 3 丁 1 番 29-502 号
TEL 072-229-6331
FAX 072-242-6315
Email QYD04504@nifty.com
写 真 渕上哲也
頒 價 300 円

振込先

■加入者名：堺からのアピール
郵便振替口座：00950-6-276148
■加入者名：堺市民活動サポート基金
ゆうちょ銀行口座：14130-30681501

たたかう  市民はもう振り返りません

価格 300円